

佐藤茂樹先生を偲ぶ

新原 明

野山を運動靴をはいて飄々と歩かれ、時折立ち止まっては、白髪のいが栗頭をなでながら生物をじっくりと観察され探究される先生のお姿を、いつも思い出します。

先生は、『生物への面白さを養う切っ掛けは、自然とのふれあいにある』という考えをいつも持っておられたようで、授業での板書にしても、葉一枚を非常に丁寧に正確に書かれ、しかもできるだけ速く書こうとなさったのでしょうか、左右両手を巧みに使ってるまで二刀流の剣士のようにいらっしゃいました。また、学校自然博物館をつくることを絶えず考えられていて、生物教室の前の廊下に、展示コーナーを設けられ、ご自分が採集された各種の生物や学校内外の方々から提供された標本を展示され、採集場所・採集期日・名称の由来、その他その生物に関するくわしい解説を必ずつけておられました。陳列品は四季折々の野草、各種の蝶・貝殻・化石など、常にテーマを持って工夫されていました。当時生徒であった私も、この展示コーナーを見るのが楽しみで、マムシグサ・ギンリョウソウ・ナンバンギセル・シダ植物の前葉体・ギフチョウ・デンキウナギ・牛や豚の胎児などはじめて見るものが多く、生物に興味を持つようになった大きな切っ掛けとなりました。

先生の研究熱心には、つくづく敬服いたしますが、今も滝川高校の標本室には、タキガワゾウ *Parastegodon inflequens* Shikama の『顎骨の一部とそれから生じた臼歯の一本』の化石があります。これは大正15年、今は故人になられたが、当時本校の英語教諭であられた柴田寿栄次先生が、中学2年生の時に自宅の縁の下にあったものをたまたま見つけられ、学校に持ってこられて寄贈されたものですが、先生はこの化石をいろいろ調べられ、最終的には、昭和8年に現横浜国立大学教授鹿島時夫博士により命名されたものです。

昭和43年「核酸と生物の進化」について先生が講演されたのを聴講したことがあります。先生のDNAに対する知識の深さと、新しいことに対する探究心の深さには本当に感心いたしました。この時の講演は、日本生物教育会札幌大会で『銀賞』を受けられたと聞いております。当時、遺伝子としての核酸が高校教育に取り上げられ始めた時期で、昭和42年度から使用する10種類の高校生物教科書に対する先生の調査によると、『DNAの遺伝情報』について記載しているのは50%で、『伝令RNAや運搬RNA』についての記載は20%の状況であった、とのことでした。

問題に対する研究の深さと熱心さがいかに大切であるかということ、言葉を通してではなく、実践において

示して下さい先生のお姿をいつまでも心にとどめておきたいと、思い続けております。

(しんばら あきら：滝川中・高等学校教諭)

兵庫県生物学会と父・佐藤 茂樹

佐藤 博保

この度滝川学園中・高等学校の新原先生から、兵庫県生物学会の記念誌が発行されるので、私の父である佐藤茂樹の兵庫県生物学会への貢献、業績や思い出などについての資料の提供をもとめられた。父は戦前、戦後の二度にわたって昭和45年まで滝川学園に奉職し、生物(戦前は博物)の教師として勤めるとともに、兵庫県生物学会(戦前は兵庫県博物学会)の一員として、兵庫県とその周辺の生物や地質・鉱物を研究したり、高校生や中学生、小学生に生物採集などを教えたりしていた。父は滝川学園を退職後、私の勤務先の移動にもなつて鹿児島に行き、昭和48年に亡くなった。そのとき父の手もたには、多くの蔵書とともに兵庫県生物学会誌などの資料、多数の植物、鉱物標本などがあつたが、その多くは父の死後、滝川学園の生物の先生の求めにしたがつて学園に寄贈した。新原先生のお話では、いまではそれらは散逸してしまつて何も残っていないとのことである。そのためここでは、きわめて少しだけ残っている資料と、私の記憶とから父と生物(博物)のつながり、とくに兵庫県生物学会との関係について記すことにする。

1. 戦争前、昭和12年まで

父は明治22年に茨城県に生まれた。実兄の鶴町猷が茨城県博物学会で活動していたことの影響もあつてか、日立市で小学校に勤務していたころから博物に親しんだようである。大正9年9月8日に、当時の滝川中学校の岡校長のお誘いをうけて着任したのが、兵庫県にお世話になったはじめてあつた。その頃、山陽電車で板宿の停留所はまだなく、車掌に頼んで電車を止めてもらったという。父はその当時からすでに、野山を跋渉して昆虫や植物、鉱物を求め歩いたことと思われるが、兵庫県博物学会とのかかわりは、学会が創設された昭和5年から始まるようで、その様子はつぎに全文を掲げる感謝状からうかがわれる。

「感謝状 昭和五年五月本県下中学校博物科担任教員打合せニ於テ本会設立ノ議決スルヤ君推サレテ中央創立委員トナリ会ノ成立ト共ニ会計幹事ニ挙ゲラレ以来八星霜公務励精ノ一面煩瑣ナル事務ヲ執リ更ニ郷土研究ノ上ニ幾多ノ業績ヲ挙ゲラレ本会ヲシテ重キヲナサシメラルルニ今回東京府ノ礼ヲ厚クシテ招聘セラルルニ会フ本会ノ損失コレヨリ大ナルモノナシト雖亦如何トモスベカラ